



2020年9月8日

日本鉄道労働組合連合会

## JR北海道労働組合第 18 回定期大会

### 新体制を確立！かつてない試練を乗り越えていく！

JR北労組は、9月5日、札幌市内において、第18回定期大会を開催した。スローガンに「次代を展望した労働運動を展開し、安全最優先の確立と政策課題、組織課題を解決し、労働者の生活向上、JR産業の維持発展を実現しよう」を掲げ、道内各地から約70人が参集した。本大会は7月に開催予定だったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に鑑みて延期したことから、延期の承認を確認した上で出席者を最小限に抑えるなど、感染予防対策を入念に行いながら開催する運びとなった。また、開会前には、昨年の大会以降に新規加入した仲間13人が紹介され、満場の拍手で歓迎し、さらなる組織拡大にむけ意志統一が図られた。

冒頭、挨拶に立った昆弘美中央執行委員長（JR連合副会長）は、新型コロナウイルス感染症について「収束の兆しが見えない状況にあり、かつて経験したことのない試練」と延べ、四半期決算の状況を説明し、経営状況が厳しい中で「この難局を打開するためには労使が結束して、知恵を絞り、あらゆる取り組みを双方の努力で進めていくことが求められる」と訴えた。その後、JR北海道の経営自立にむけた取り組み、「JR連合ビジョン」に基づく組織活動に対する所感を示したうえで、大会への積極的な参画を要請した。



大会には、JR連合から荻山市朗会長、中村鉄平交通政策部長が出席し、激励と連帯の挨拶を行った。議事においては、執行部から提起された今年度の運動方針に対して8人の代議員から方針を補強する発言があり、執行部からの答弁を経て、園木寛嗣書記長からの総括答弁を行ったうえで、すべての議案が満場一致で承認された。

役員改選では、昆中央執行委員長を再任し、新たに越後真一中央執行副委員長、人見圭一書記長を選出するなど、新執行部体制が確立された。大会宣言および「JR北海道の経営自立に向けた決議」を採択した後、昆委員長による団結ガンバローでコロナ禍を乗り越え、経営自立を実現していく決意を固め合った。